

平成18年度子ども読書活動交流集会の開催について

今年度も「子ども読書活動交流集会」を開催します！



埼玉県では、県内で子どもの読書活動に関わる人々の相互交流とスキルアップを目的に、「平成18年度子ども読書活動交流集会」を開催します。

昨年度は、嵐山町の国立女性教育会館を会場に263名の参加がありました。

今年度は、さいたま市に会場を移します。内容は、「ふかめよう、子どもと本の豊かな世界」をテーマに、午前は講演会、午後は5つの分科会にわかれ、研修や実践報告を行います。

この集会を通じて県内の子どもの読書活動がより活発になることを目指しています。

みなさまのご参加をお待ちしています。

日時：平成18年11月19日(日)
10時～15時30分

会場：さいたま市民会館おおみや・小ホールほか

内容：午前の部

講演 「子どもの成長と絵本」
講師 中村 柁子氏(立教女学院短期大学講師)

午後の部 (テーマ別交流)

分科会A 「読み聞かせ 基礎編」

分科会B 「読み聞かせ 応用編」

分科会C 「わらべうたで遊ぼう」

分科会D 「実践報告 地域編」

分科会E 「実践報告 学校編」

*詳細は、後日ちらしや埼玉県立図書館のホームページ等でご案内します。

布絵本モニター調査について

布絵本は従来の「紙に印刷された本」と異なり、視覚だけでなく、触覚も使って多角的に遊ぶことができます。そのため、視覚、聴覚、手足の運動、情緒などに障害を持つ子どもたちにも親しめる絵本です。また、布絵本は、単に布地に絵を描いたり、刺繍をしたものではなく、布・ひも・ボタン・スナップなどを用い、遊びながら、むすぶ、ほどく、はめる、あわせるなど、指先の訓練にもなります。このように布絵本は遊びを通して、集中力・観察力・作動能力を養うことができると言われています。

県立久喜図書館では、ボランティアグループつくりのみなさんの協力により、布絵本を製作し、養護学校等へ貸し出しを行っています。また、所蔵する布

絵本の利用促進と布絵本の製作方針や貸出方法の

参考にするため、昨年度、県内の養護学校27校を対象に「布絵本モニター調査」を実施しました。

調査の回答から、子どもたちが概ね興味を持って資料にふれ、利用されたことがわかりました。具体的な反応の事例も挙げられており、今後の布絵本製作の参考となりました。

今年度は県内の児童福祉施設を対象に実施します。

県立図書館では、このモニター調査を機に障害を持つ子どもたちへの読書サービスがより一層広がるよう努めていきたいと思っております。



お詫びと訂正

創刊号第1面掲載の団体紹介「浦和子ども読書連絡会」の執筆者は、浅香都子様ではなく、平田潤子様の誤りでした。お詫びして、訂正させていただきます。

編集後記

船出はしたものの、視界不良。収集した情報はみなさまのお役に立っているでしょうか。私たちの信じる「知恵の電子玉手箱」へ、多くの方々のアクセスがいただけますよう、また、収集テーマ・情報へのご希望・ご意見も、スタッフ一同、お待ちしております。(『Shien』号艦長 M.W.)



編集発行 埼玉県立久喜図書館
子ども読書支援センター
協力 子ども読書支援ボランティア

埼玉県立図書館のホームページ
<http://www.lib.pref.saitama.jp/>
「子ども読書支援サービス」

〒346-8506 埼玉県久喜市下早見85-5 fax 0480(21)2791 ☎0480(21)2659(代)

Shien 第2号

子どもの読書に関わる大勢の方の活動とネットワークを支援(Shien)するそんな大きな願いをもったささやかな情報誌です。

平成18年9月1日 発行

埼玉県立久喜図書館 子ども読書支援センター

《目次》

おはなしボランティア指導者養成講座と	
地域子ども読書支援事業について	1
連載:おはなし・読み聞かせ実践講座	1
連載:子ども読書支援関係ボランティア団体紹介	2
新聞・雑誌クリッピング担当から	2
ブックリスト担当から	3
インターネットからの情報収集担当から	3
平成18年度子ども読書活動交流集会の開催について	4
布絵本モニター調査について	4

“ 拡げよう読み聞かせ・ストーリーテリングの輪 ”

「おはなしボランティア指導者養成講座」と「地域子ども読書支援事業」について



子ども読書支援センターでは、昨年度、絵本の読み聞かせやストーリーテリングなど、長年子どもの読書に関するボランティア活動をされてきた方を対象に、「おはなしボランティア指導者養成講座」を実施しました。

今年度は「拡げよう読み聞かせ・ストーリーテリングの輪」というテーマで、昨年度実施した同講座の修了生を「おはなしボランティア指導者」として、県内のボランティア団体に派遣する「地域子ども読書支援事業」を実施しています。年3回(第1期:6月～9月、第2期:10月～12月、第3期:1月～2月)、各20団体に指導者を派遣します。第1期は17団体の応募がありました。すでに講座を実施した団体からの報告書を拝見すると大変、好評をいただいています。

「地域子ども読書支援事業」2期の募集は9月1日開始です。ご応募をお待ちしています。詳しくは、県立図書館ホームページ内の「子ども読書支援サービス」のページをご覧ください。

また今年度も「おはなしボランティア指導者養成講座」を9月から実施します。来年度へのさらなる拡がりや深まりが期待されます。

おはなし・読み聞かせ実践講座

このコーナーでは、「おはなしボランティア指導者」の皆さんによる、おはなし会を行う上でのワン・ポイント・アドバイスをリレーでお届けします。

「今でもふっと思い出します。あの頃の読み聞かせの時間を…」と、子どもを抱いた若いお父さんが話しかけてきました。「先生もみんなも一緒になって“おはなし”を丸ごと味わおう、そんな空気があって毎日の読み聞かせの時間がとても楽しみでした。」かつての教え子、クラス一腕白だったM君との20年ぶりの再会でした。

学校ぐるみでの読み聞かせの取り組みが少なかった頃の事です。子ども達は小学生になると途端に大人から絵本を読んでもらうという体験が極端に少なくなります。読書体験が少ないのではと思われる子どもも多く、クラスの落ち着いた雰囲気も気がかりでした。それならばと私が読み手になっての朝の読み聞かせが始まりました。「あの子達、にっこりするだろうな」と思って選書し、「この本楽しかったよ、どう?」という具合で読みました。

大勢での読み聞かせに向いている遠目がきいて絵と文とのバランスの良い絵本をクラスのその時々状況

や雰囲気や気を配りながら選びました。そしてお話の魅力を十分に引き出せるように心がけ、よく読み込んでお話の流れやリズムを大切にしながらページをめくりました。

「お話の世界に自由に入っていける自分だけの時間。聞き終えた後の“ああ、楽しかった”という充足感。一緒に聞いている仲間との一体感」そのような体験を子どもたちは心の中に積み重ねていったと思います。絵本をめくる時、ページのむこうの世界に思いを馳せる空気が子ども達から感じられるようになった頃、気がつくクラスは落ち着いたとても良い雰囲気になっていました。

「時間のあるときはこの子に読み聞かせしています。」と話してくれたM君はとても幸せそうでした。「読み聞かせパンザーイ!」です。



中田逸子(おはなしボランティア指導者養成講座受講生)

狭山市地域文庫連絡会

「狭山市地域文庫連絡会」は、1977年、市内で活動していた8つの地域文庫が集まり「子どもの本を中心に、地域の児童文化を向上させたい」として発足しました。現在6文庫で活動しています。活動内容は次の通りです。

1 月1回のもの

- ・定例会 文庫の活動報告、情報交換、交流を中心に文庫連の活動内容の検討・決定など。
- ・ぶんこのポケット・ちびぞうクラブの支援
ぶんこのポケットは中央図書館で、文庫持ちまわりで、「よみきかせ」「エプロンシアター」の実演を、ちびぞうは狭山台図書館で「よみきかせ」を図書館員と共同で実施。

2 年1回のもの

- ・おはなしと手作りあそびの会
11月、地域文庫全部が集まり、午前「おはなし・パネルシアター・紙芝居」の実演、午後は身近な材料を使って手作りを楽しみます。
- ・ブックリストの作成 既刊12冊。
文庫で子どもたちに愛されている本、読んでもらいたい本を中心に選んでいます。ことしのテーマは「かぞく」。目下、製作中。
- ・講演会
2月、市内全域に呼びかけて子どもの本に造詣の深い講師・人気作家をお招きして開催します。

子ども読書支援関係ボランティア団体紹介

- ・見学会
学校図書館ボランティアの方たちもお誘いして、先進図書館や学校の見学。文庫の遠足です。
 - 3 その他 中央図書館と共同で、クリスマス会の実施。埼玉県子ども読書活動交流集会への準備委員会からの参加なども取り組んでいます。
- 各文庫の活動は、発足当時の「貸し出し・よみきかせ」中心から、児童館・公民館での「おはなし・パネルシアター・わらべうた」など多様な方向に変化してきています。学校や地域・公民館の行事参加への要請も増え、文庫の活動が理解され浸透してきていると感じます。これからも地域で、子どもと本を結ぶ役割を担いたいと思っています。

古賀 清子
(狭山市地域文庫連絡会)



Nice to meet you !

子ども読書支援ボランティアです。

埼玉県立図書館のホームページ
<http://www.lib.pref.saitama.jp/>
「子ども読書支援サービス」のページ

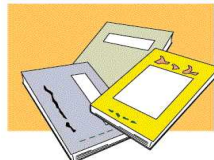
きりぬき羅針盤

新聞・雑誌クリッピング担当から

創刊号で、私たちがどのように作業を進めているか、ご紹介しました。その後、新聞については、平成18年1月から4月までの記事採録が済み、その中の一部をホームページへも掲載しています。

3月、4月の採録分の中から、今回は本に関係した記事をいくつか拾ってみましょう。

- 3・2 産経 “「自分で自分の身を守る」を啓発”という見出しで、最近出版された本の紹介『ぜったいについていけないよ！』『ひとりではまんしないよ！』『いや！』というよ！。
 - 3・21 朝日(夕) 自らのいじめ体験を小説にした『夢の総理大臣』という本が出版された。いじめを受けた主人公が「いじめ防止法」の制定を目指すという物語。
 - 3・12 日経 子ども向け職業ガイド本の刊行が相次いでいる。ノートが増えている中、子どものうちから職業への関心をという親の気持ちにこたえる動き。
 - 4・15 読売(夕) 小中高生へのアンケート「この1年間に泣いたことがある？」に対し、全体の9割があるという答え。それは「テレビドラマや映画を見た時、本を読んだ時」。
- ある書店には“涙本”コーナーがあるそうです。「泣くことはストレス解消、涙は“心の排せつ物”」



出版の傾向から、子どもが今、どんな状況に置かれているかが逆に見えて来ます。クリッピングはつくづく奥が深い作業だと思います。 渡辺(子ども読書支援ボランティア)

使えるブックリスト

今回は、選書方法についてお知らせします。

まず、メンバー各自、季節にあった日本の昔話、世界の昔話、創作、科学、ことばあそびといった絵本を持ちよります。次に一冊一冊読み合わせをする中で、自分たちが実際学校で読み聞かせした時のエピソードも伝えあいます。ストップウォッチで読み時間を計り、朝の読書の15分に合うようプログラム例を作ります。

そんな中で惜しくもリストからもれてしまった本も多数あります。例えば「夏」のリストでは、「『きみは知っている』(五味太郎/岩崎書店)はトリックの犯人さがしがとてもおもしろいけど、読み聞かせを始めたばかりの人には、ページを戻したり、子どもとのやりとりがむずかしいかな」

「秋」のリストでは「『紅玉』(後藤竜二/新日本出版)は是非知っていてもら

ブックリスト担当から



いたい本だよ。」「でも課題図書になったから手に取りやすくなったかも。自分で手に取りにくそうな本をリストに入れた方がいいね」等。

また持ち寄った本が「お月さま」と「柿」に集中してしまい、接戦の末『お月さまってどんなあじ?』(ミヤエル・グレイニエ/セーラー出版)と『あたまにかきのき』(望月新三郎/フレール館)がもれてしまいました。

図書館職員の方より、カウンターでの問い合わせの際、私たちの作ったリストが活用されている様子を聞き、とても喜びを感じました。皆様にも活用して頂けたらと思います。

また今後はお母さんや先生が毎日少しずつ読み聞かせをするのにおススメな長めの本のリストを作りたいと思っています。

皆様からのご意見をお待ちしています。

大塚(子ども読書支援ボランティア)

知っ得情報!



インターネットからの情報収集担当から

*** おすすめHP(ホームページ)の紹介 ***

- ☑ 広島県立図書館 <http://www.hplibra.pref.hiroshima.jp/>
「来(ら)いぶらり・フレンズ」 中・高校生ボランティアの活動を掲載。「作成素材」や、「パパへのおすすめ絵本リスト」など…。つい応援したくなるHP! その他にも「パパの小屋」や県内から集められたブックリストも必見!!
- ☑ 子どもの本まつり in とうきょう(JPIC) <http://www.jpica.or.jp/>
上野公園内で開催される児童書に関するイベント。本の割引販売、講演会、サイン会など。
- ☑ 日本書籍出版協会 <http://www.jbpa.or.jp/>
平成18年(2006年)5月12日 児童書四者懇談会作成 手引き「お話し・読み聞かせ団体等による著作物の利用について」
・学校その他の教育機関における著作物の複製に関する著作権法第35条ガイドライン[PDF]
・学校その他の教育機関における著作物等利用に関するフローチャート[PDF]
作者の許可が必要って、どういうこと?そんな疑問を感じたら、まずこのHPを。尚、埼玉県立図書館においても著作権についての相談を受け付けています。詳しくは、子ども読書支援センター窓口まで。



情報収集グループは、子ども読書支援のための「ブックリスト」「関連記事」「イベント」について、インターネット情報を収集しています。毎月初めには情報を更新できるよう作業を進めていますので、ご活用ください。また、「こんな情報がほしい。」「こんな情報があるよ。」など“あなたの声”を募集しています。お気軽に声をおかけください。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。 門田(子ども読書支援ボランティア)